

応急手当の必要性



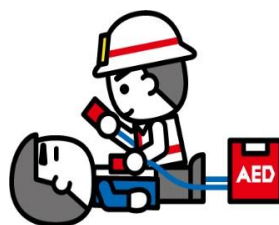
『突然、ケガや病気になった時、救急車が到着するまでに、あなたは愛する人のかけがいのない命を救えますか？』

私たちは、いつ、どこで、突然のけがや病気におそわれるかわかりません。急に倒れ、意識がなくなり、呼吸や心臓が止まってしまうような重篤な場合は、救急車が来るまでに適正な処置をしないと命は助かりません。後で後悔することがないように、しっかりと**応急手当**（病院に行くまでに家庭や職場でできる手当）を覚えておきましょう。

心肺停止状態になると血液を通じた酸素の供給がなくなるため、体の中の臓器は障害を受けてしまいます。特に脳は障害を受けやすく、血液の供給が再開しても、麻痺・しゃべれないなどの後遺症が残る場合があります。また、人間の脳に酸素が届かなくなると、一般的には15秒以内に意識が消失してしまい、血液が3分から4分以上停止すると回復することが困難となります。今では、心臓の動きを取り戻すことだけでなく、脳のダメージをできるだけ軽くして社会復帰していただくことが目標とされるようになりました。

今治市消防本部では心臓や呼吸が止まった人に対する、**応急手当**を習得していただけるように、市民の皆様、事業所等を対象とした救急救命講習「心肺蘇生法」「AEDの使用方法」「ケガの手当」「食べたものを喉に詰めた時の対処法」を実施しています。

市民の皆様には応急手当をマスターし、「異変に気づく」「素早い処置」はもとより「心肺**脳**蘇生」を実施し社会復帰のお手伝いをしていただければ幸いです。



救命の連鎖

心臓が止まってしまうような重篤な状態の時には、現場に居合わせた人の応急手当、救急車をすぐ呼ぶ事や、救急隊による救急救命処置、搬送先医療機関での医療処置が、スムーズな連携で行われることが救命のためには必要です。

このことを「救命の連鎖」といい、この連鎖が一つでも欠けたら尊い命は救えません。

「救命の連鎖」



① 心臓停止の予防

心臓停止の予防とは、突然死を防ぐことです。

成人では、胸の痛み、頭の激しい痛み、体が動かない、動かしづらい、話しづらい等の初期症状を見逃さず、心停止に至る前に医療機関で治療を開始することが重要です。

小児では、交通事故、転落お風呂の水を溜めない事や蓋をする等、窒息や溺水などによる不慮の事故を防ぐことが重要です。

② 心臓停止の早期認識と通報

心臓停止の早期認識と通報とは、突然目の前で急に人が倒れたり、反応がない人を見つけたら、直ちに心臓が動いていない事を疑い、大声で助けを求め、119番通報やAEDを持ってきてもらうよう依頼します。

③ 早い心肺蘇生と AED

現場に居合わせた人がする処置であり、心臓や呼吸が止まってしまった傷病者の社会復帰に大きな役割を果たすものです。

④ 救急隊、病院での処置

救急隊や医療機関における専門的な処置・治療により心拍を再開させ、社会復帰を目指した高度な治療を行うことです。

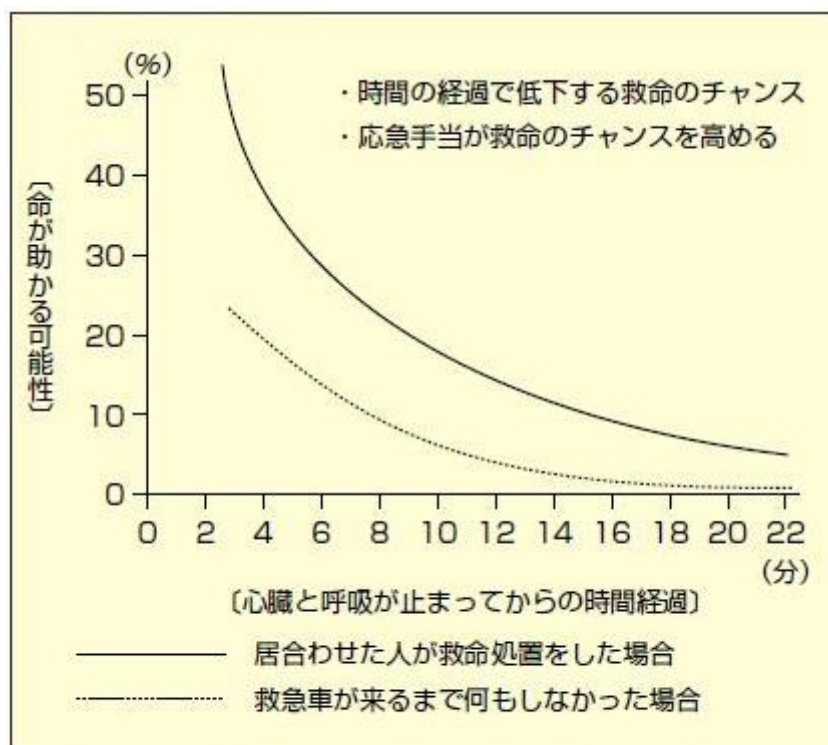
この4つの輪のうち、どれか一つでも途切れてしまえば、救命効果は低下します。特に現場に居合わせた市民のみなさんは、この救命の連鎖のうち最も重要な真ん中の2つの鎖を担っています。

ホルムベルグの救命曲線

ホルムベルグ曲線は、心臓や呼吸が停止した経過時間と救命率の目安をグラフ化したものです。

脳は、心臓が止まると15秒以内に意識がなくなり、3～4分以上そのままの状態が続くと回復することが困難となります。心肺蘇生によって脳や心臓に血液を送り続けることがAEDの効果をも高めるとともに、後遺症を残さないためにも重要となります。

命が助かる可能性は、時間とともに減っていきませんが、現場に居合わせた人による心肺蘇生を行った場合は、救命のチャンスを高めることがグラフに示されています。命を救うためには、その場に居合わせた「あなた」が心肺蘇生を行うことが最も重要です。



Holmberg M et al. Effect of bystander cardiopulmonary resuscitation in out-of-hospital cardiac arrest patients in Sweden. Resuscitation 47:59-70, 2000. より、一部改変して引用